

環境省による特定外来生物等の防除

(1) 生物多様性保全の観点から最優先で保護すべき地域における防除

- 奄美大島及び沖縄島北部地域におけるマングースの防除事業
- 小笠原諸島におけるグリーンアノールの防除事業
- その他、国立公園等における防除 等

(2) 広域に分布、定着している侵略性の高い外来種の防除の支援

① 防除モデル事業（防除手法等の成果を地域における防除に活用）

- アライグマ、○オオクチバス等、○アルゼンチンアリ、○カミツキガメ
 - … 防除手法の検討、実施体制の構築、自治体間の情報交換等を実施。
 - … 手引き・事例集を作成し、情報提供。

② 地域における外来種防除事業の支援

地域の多様な主体による生物多様性の保全活動の推進（公募）

- 生物多様性保全推進支援事業（交付金：国費1／2以内）
 - … 地域住民、NPO・NGO、事業者、地方公共団体などにより構成される地域生物多様性協議会に対する支援。
- 地域生物多様性保全活動支援事業（委託費）
 - … 地方公共団体、NGO・NPO、事業者、協議会などの防除実施主体に対する支援。

(3) 定着初期段階での緊急性の高い侵略的外来種の監視、早期対応

- 主要港における外来アリ類モニタリング、アルゼンチンアリ初期防除（東京湾）
- スパルティナ・アルテルニフロラに係る防除及び侵入実態把握調査 等

(4) 外来生物法ホームページにおける普及啓発（<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>）

外来生物法ホームページにおいて、防除に係る情報提供も実施。

- 防除にあたって（留意点）、○環境省が行う防除、○防除の確認・認定一覧、申請様式
- 防除に関する手引き（アライグマ、オオクチバス等、アルゼンチンアリ、カミツキガメ）

(5) 技術開発

- 生物多様性関連技術開発等推進事業

「侵略的外来中型哺乳類の効果的・効率的な防除技術の開発に関する研究」（H21-23）

- ① ジャワマングースの捕獲・駆除技術と在来種の混獲防止技術の開発
- ② ジャワマングース根絶のための探索技術開発と捕獲効果検定手法の開発
- ③ 低密度状況下でのアライグマ探索・捕獲技術の開発
- ④ 簡便・安価で衛生的なアライグマ捕獲手法の開発

- 環境研究総合推進費

「外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」（H23-25）

- ① 外来昆虫類の防除手法開発および外来生物防除ネットワークの構築
- ② 外来魚類の防除手法開発および防除体制強化
- ③ グリーンアノールの生物学的特性に基づく防除戦略開発
- ④ マングース超低密度個体群の根絶技術開発
- ⑤ アライグマの効率的防除戦略開発
- ⑥ 防除実践のためのモデル解析

環境省による特定外来生物等の防除

(1) 生物多様性の保全の観点から最優先で保護すべき地域における防除

哺乳類

ジャワマングース防除事業	[奄美大島] H14年度-、 [沖縄島北部地域] H8-11年度（調査等）、H12年度-
--------------	---

国指定鳥獣保護区や国立公園等：アライグマ防除（ウトナイ湖、知床、支笏洞爺）、シマフクロウ給餌場アメリカミンク防除事業、近畿タイワンザル防除事業（H17年度）

両生爬虫類

グリーンアノール対策	[小笠原] H15年度-（調査）、H18年度-（防除） [沖縄島] H20年度-（調査）
オオヒキガエル対策	[八重山諸島] H17年度-、[小笠原] H15年度-
ウシガエル対策	[小笠原] H16年度-
シロアゴガエル対策	[石垣島] H20年度-

魚類

国指定鳥獣保護区や国立公園等：オオクチバス等（阿寒、仏沼、蕪栗沼、皇居外苑）

植物

国立公園等：ナルトサワグク（瀬戸内海国立公園）、オオハングンソウ（利尻礼文サロベツ、支笏洞爺、十和田八幡平、磐梯朝日、日光、中部山岳、伊豆沼等）

無脊椎動物

国立公園等：ウチダザリガニ（支笏洞爺、釧路湿原）、ニューギニアヤリガタリクウズムシ（小笠原）
セイヨウオオマルハナバチ（大雪山、知床、釧路湿原）

特定外来生物以外の外来種

インドクジャク（西表石垣）、グリーンイグアナ（西表石垣）、ノネコ（やんばる、小笠原、西表）、ノヤギ（小笠原、五島列島）、ネズミ類（小笠原、国指定ユリリ・モユリリ鳥獣保護区）、ノブタ（小笠原）、タヌキ（屋久島）

(2) 地域における外来種防除事業の支援

① 防除モデル事業

オオクチバス等	[伊豆沼・内沼、琵琶湖内湖、蘭牟田池] H17年度- [犬山市ため池群] H17-19年度、 [羽田沼] H17-21年度、[片野鴨池] H17-20年度 [長野県千曲川（コクチバス）] H19-20年度、 [岡山県吉井川] H21年度-
アライグマ	【高密度生息地域】 [北海道、関東、近畿] H17-19年度 【分布拡大の先端地域】 [四国] H21年度-H23年度 [中国] H24年度- [長野（アライグマ、アメリカミンク）] H18, 19, 23, 24 [九州] H21年度-
アルゼンチンアリ	[愛知] [広島] H18-20年度、 [岐阜] H21-23年度
カミツキガメ	[千葉県印旛沼] H17-22年度

② 地域における外来種防除事業の支援

生物多様性保全推進支援事業

○いなみ野ため池ミュージアム運営協議会（兵庫県、オオクチバス等防除を含む、H20-21）
○アルゼンチンアリ対策広域行政協議会（広島県及び山口県H20-22）、○田原市アルゼンチンアリ対策協議会（愛知県、H21-23）、
○アライグマ防除京都広域協議会（京都府、アライグマ、H21-23、アライグマ・ヌートリア、H24-）、○なごや生物多様性保全活動協議会（アライグマ・ミシシippアカミガメ・外来性スズメ、H23-）、○竹富町インドクジャク防除対策協議会（H23-）、○旭川市生物多様性保全推進協議会（アライグマ、H24-）、○然別湖生物多様性保全協議会（鹿追町、ウチダザリガニ、H24-）、○各務原市アルゼンチンアリ対策協議会（岐阜県、H24-）、○多田羅沼自然環境保全地域生態系維持回復協議会（栃木県、ブラックバス・ウシガエル等、H24-）

地域生物多様性保全活動支援事業

○千葉県：カミツキガメ、ウチダザリガニ（H22-）、○和歌山タイワンザルワーキンググループ（H22-）、
○特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター：ソウシチョウ（H22-）、○熊本県宇城市：クリハラリス（H23-）、○石川県金沢市：オオキンケイギク（H24-）

(3) 定着初期段階での緊急性の高い侵略的外来種の監視、早期対応

東京港におけるアルゼンチンアリ防除（H23-）、ヒアリ等モニタリング（H22-）、
スパルティナ・アルテルニフロラに係る防除及び侵入実態把握調査（愛知、熊本ほか：H23-）

農林水産省による特定外来生物等の防除

(1) 農業被害の防止や軽減を図る目的での防除の取組に対する支援(生産局農産部農業環境対策課)

- 鳥獣被害防止特措法に基づく被害防止対策への支援
- 特定外来生物による農作物への被害防止マニュアル作成と関係機関への配布(平成21年度)

(2) 駆除手法の研究開発(水産庁栽培養殖課)

- 外来魚の生息状況に応じた最も適切な駆除手法の開発
 - ・外来魚の産卵特性や在来生物への影響を考慮した効率的かつ適切な駆除手法の開発(平成24年度から3年計画の研究事業)
 - ・有害外来魚駆除マニュアルの作成と関係機関への配布(平成23年度)

(3) 林野庁による取組

- 森林環境保全総合対策事業
 - ・小笠原諸島における森林生態系保全管理技術事業
 - ー侵略的外来種と在来種の種間相互作用に着目した新たな森林生態系保全管理のための技術等に係る開発を目的とする(平成21年度～平成24年度)。
 - ー兄島及び父島での動植物相のモニタリング調査を通じて、兄島中央台地上の乾生低木林をモデルとした種間関係図や森林生態系保全管理に活用されるガイドラインを作成。

(4) 各森林管理局による防除事業(林野庁森林管理局)

- 関東森林管理局内
 - ・固有森林生態系の修復事業に係る事前モニタリング(平成21、22年度)
 - ・小笠原固有森林生態系の修復に係る外来植物の駆除(～平成22年度)
 - ・小笠原諸島における空中写真による外来植物分布調査事業(平成21、22年度)
 - ・小笠原諸島固有森林生態系の修復に係るモニタリング・外来植物駆除・駆除予定木調査事業(平成23年度～)
 - ・小笠原諸島国有林における外来植物の駆除実施計画作成事業(平成23年度)
- 中部森林管理局内
 - ・外来植物除去作業(中部山岳国立公園内、室堂平)
 - ・セイヨウタンポポ除去作業(中部山岳国立公園内、乗鞍岳線の県道脇)
- 九州森林管理局内
 - ・海岸林等における自然再生手法の検討(西表島内ギンネムの抑制試験)
 - ・屋久島におけるアブラギリの実態調査

(5) (独)森林総合研究所による研究

- 小笠原諸島における帰化生物の根絶とそれに伴う生態系回復過程の研究(環境省、国立機関公害防止試験研究 期間：平成17-21年度)

- 脆弱な海洋島をモデルとした外来種の生物多様性への影響とその緩和に関する研究（環境省、地球環境研究総合推進費 期間：平成 17-21 年度）
- 侵入種生態リスクの評価手法と対策に関する研究（環境省地球環境研究総合推進費 期間：平成 16-18 年度、主査：国立環境研究所）
- 侵略的外来中型哺乳類の効果的・効率的な防除技術に関する技術開発（環境省生物多様性関連技術開発等推進費 期間：平成 21-23 年度、主査：琉球大学）
- 外来野生動物等による新たな農林被害防止技術の開発（農林水産技術会議事務局、実用技術開発事業 期間：平成 18-20 年度）
- 外来種セイヨウオオマルハナバチの侵入の動態と在来マルハナバチに対する影響（科学研究費補助金 期間：平成 17-18 年度）
- 小笠原諸島における帰化生物排除後の森林の順応的管理方法の開発（環境省、国立機関公害防止試験研究 期間：平成 22-24 年度）
- 外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発（環境省、地球環境研究総合推進費 期間：平成 23-25 年、主査：国立環境研究所）
- 海洋島における外来生物の駆除が生態系の物質循環に与えるインパクト（科学研究費補助金 期間：平成 22-24 年度 主査：首都大学東京）

国土交通省による特定外来生物等の防除

(1) 地域生態系保全のための緑化技術の開発

○外来牧草を使用しない緑化工法技術開発

＜成果＞

→各種緑化工法に応じて植生の成立状況、初期の耐浸食性、地域性・環境条件の違いによって生じる課題を明らかにし、工法選定や施工段階での留意点等を整理

(2) 特定外来生物オオキンケイギクの防除手法の確立に関する研究

○オオキンケイギクの防除実験を行い、効率的・効果的な防除手法の確立

＜成果＞

→オオキンケイギクはシードバンクを形成するため、短期の抜き取り管理のみでは不十分
→開花抑制を持続させるには継続した刈り取りが必要
→表土はぎとりは、埋土種子の効率的除去および再定着抑制に効果が高い
→都市公園等を対象とした効率的・効果的な防除手法を示した管理マニュアルの作成

(3) 外来生物法に基づく外来種防除の取組

- ・外来生物法第 11 条に基づく防除の主務大臣等として、「オオキンケイギク、オオハンゴウソウ、ナルトサワギク、オオカワヂシャ及びアレチウリ」の防除を実施
- ・河川管理者、市町村、地域住民等が連携して防除を実施

＜事例＞

○河川・ダムにおける外来種対策

- ・ブラックバス（オオクチバス）等の防除（灰塚ダム、苫田ダム等）
- ・ボタンウキクサの防除（淀川、緑川等）

○外来種駆除を通じた普及啓発（市民等との連携）

- ・市民団体を中心に研究者、地元自治体、河川管理者等が協働でシナダレスズメガヤの抜き取り作業（鬼怒川）
- ・市民団体中心のボランティアによるアレチウリの防除（天竜川）
- ・関係機関で組織する連絡会で、ホテイアオイの防除、また、一般市民を対象としたフィールド講座によりナルトサワギクの防除（吉野川）